

## == クロージングセッション ==



議長  
レオ・ファンデンベルグ  
Leo van den Berg



第1セッション議長  
アダム・オストリー  
Adam Ostry



オディール・サラール  
Odile Sallard  
OECD 公共政策・地域開  
発局長



第2セッション議長  
アン・ルーデン  
Anne Ruden



阿部 健 Takeshi Abe  
国土交通省大臣官房審議  
官（都市・地域整備局）



第3セッション議長  
原 隆之  
Takayuki Hara

これまでの3セッションの各議長からの報告を踏まえ、OECD各国の政策担当者としてどのような知見が得られたか、などを中心として、シンポジウム全体の議論の総括が行われました。

## ファンデンベルグ議長

今日、魅力ある都市が増えているが、社会的観点からのバランスも大切である。これを視座に置いて、第1セッションでは都市の魅力向上のための戦略、第2セッションでは都市の魅力を持続するための方策、第3セッションでは魅力向上のためのパートナーシップをどう作り上げていくかということを中心に議論を進めていただいた。それぞれの議長から特筆すべきことを報告いただきたい。

## オストリー 第1セッション議長

「魅力あるまちづくり」というのが一つのツール、あるいは手段となって都市の競争力が高まるということをお願いしたい。しかし、魅力を評価するためにはそれだけではなくて、物理的な側面からも、社会経済的な側面からも、環境、文化的な側面からも評価することができる。魅力あるまちとは、その都市が特色ある役割という意義(signature)を持っているかどうかということであり、世界的な都市はよい意味でそれを持っていないといけない。核心をつくり上げていくような都市の環境が必要である。



これはすぐに実現することは難しいかもしれないが、様々な価値が尊重される場所であることが都市としての魅力であると考えます。その中で、すべての人々がこうした都市の価値づくりに貢献できる。誰もが阻害されることがない社会づくり、これこそが都市の魅力だと思います。



## ルーデン 第2セッション議長

開発を成功に導く鍵として参加があり、この参加というのはQOL (quality of life) そして魅力と非常に直接、間接に関係が深いものである。市民や民間が参加することが成功の要素であり、様々な民間セクターを巻き込むことが重要である。こういったプロセスは対立を生みやすく、その対立の和解、その調停が将来ますます大切になり、また大きな負担になってくるが、唯一の方法でもある。参加のプロセスは合意形成や見解にも大きな影響を与えるため、透明性と能力を高めること、長期的な見通しを保障していくことが大切である。

## 原 第3セッション議長

小泉内閣になり、日本経済の再生には都市の再生が必要であると言われるようになった。イベントをきっかけに都市が変わることがあり、たとえばセビリアは万博までは閉鎖的な都

市だったがその後改善されてきている。名古屋もどちらかと言えば閉鎖的な歴史的な都市である。こういったところでの内からのオープンネス（openness）は一つのキーワードである。

第3セッションのテーマであったパートナーシップ、これが無ければオープンネスは始まらないし、アトラクティブネス（attractiveness）も始まらない。このパートナーシップ（チームワーク）を形成するには、リーダーシップが必要である。



### 阿部氏

都市とは、そこに住む人のライフスタイルを物的に映し出す鏡であり、過去、現在のすべてトータル的に反映する。

振り返ってみると、我が国は、第二次大戦でほとんどの大都市が爆撃により破壊されて、そこから急速な経済成長で発展してきたわけで、その場その場で積み重ねてきたまちであった。今、バブル経済を経てようやく本当に自分たちの生活環境がどうなん

だというのを、少し振り返る気運が出てきて、それぞれの個性を生かしたまちづくりや、市街地が外へ拡散的に広がりを見せる一方、それを元に戻して、再び自分たちの都市の中心部はどうあるべきかといった気運も出てきた。ぜひこういう気運を生かして、素晴らしいまちづくりをもう一度再構築していかなくてはならない。

外から人を引き付けるために都市政策の上で大切なことは、そこに住んでいる人が気持ちのよい生活をしていることである。あわせて、外からの目、つまり批評、批判も都市づくりを進める上で大切なことである。

### サラール氏

ほぼすべての方が、「魅力というのは、競争力のツールである」ということで合意したが、経済の開発という観点からいえば、この競争力のサイドというのが非常に重要になってくる。また、都市を住みやすくするためには、経済面、社会面、環境面だけでなく、文化的な側面も必要である。

さらに、その都市のビジョンをきちんと定義することが重要であり、テーマは都市によって違うはず



である。民間セクターの参加、資源の配分の計画することや、誰が何をするか、責任や役割をはっきりさせていくことが重要である。

## 阿部氏

モータリゼーションや通信技術の発達といった都市のまとまりを崩すような経済、社会変化が起きており、一方で人間の集まりである集積の都市というものを再構築したい思っている。都市の魅力に経済的な部分は必要だが、IT産業、ショッピングセンターシステムの変化は、都市の拡散につながる。こうした変化を取り組んでいかないと経済開発にならない、という難しい面がある。日本は欧米に比べ土地利用の規制が弱いため、マーケットメカニズムが都市を外側へ外側へと広げている。ますますそういう傾向が現れている。

## 原氏

規制を強化するという観点からではなく、パートナーシップという点からまちづくりを考えねばならない。公共、民間セクターが一緒になってパートナーシップを組んでいくことが必要である。どうやって多様性を高めていくかがポイントである。日本の都市づくりには、多様性（Diversity,）と経験（Experiment）、開放性があること（Openness）の3つが必要である。

## ファンデンベルグ議長 ~総括~

### <戦略的同盟関係を都市間で結ぶことが大切>

都市の魅力を向上させるためには、グローバルな競争から目をそらさないこと、そのために他と違った何か、特殊性や個性を持つ差別化が必要である。都市規模が大きいことが必ずしも良いことではなく、大きくあると同時に小さくもあらなければならない。

さらに、多角的・多様な都市群を形成していくことが必要である。大きな規模、小さな規模、それぞれのメリットを創出する必要がある。このために、市のルーツ、個性を良く知ること大切であると

もに、マーケティング戦略も必要でPR、コミュニケーションを円滑化することや的を絞ったターゲットが必要である。



### <調和の取れた社会形成のために>

都市政策としては、これから来てくれる人のニーズも考えに入れなければならない。こうして調和の取れた社会を形成していくためには、生活の質と社会の価値、安全性とセキュリティ、民間と都市経営再度の連携、バランスが取れていること、つまり魅力的であることを念頭に置く必要があり、はっきりしたコミュニケーションがパートナー

間で必要である。

## **ファンデンベルグ議長**

昨日、私は基調講演を差し上げるという恩恵に浴した。少しお時間をいただいて今回、話し合われた問題をハイライトとしてまとめてみたい。

### **< IT化に対応した都市の知識ベースの充実 >**

我々は現在非常にダイナミックに変化する世界に生きており、そのダイナミックな動きに合わせていかなければいけない。技術の不断の変化、政治・人口・環境の動的に変化を見据えて、都市の開発の在り方を決定していく。都市の存在基盤である経済、知識があって初めて、現代の社会で我々は役割を果たしていくことができる。

そしてアクセシビリティ（アクセスの容易さ）も重要な鍵となり、これからより規模の小さい空港の数が増え、小さな都市にも空港があるべきなのかという議論になっていく。

### **< 多様性と創造性の創出と文化活用の戦略 >**

また、多様性についての話し合いがあったが、多様性は創造性、開放性とも同義であり、オープンな社会はアクセシビリティが高い。アクセスが高ければ、世界へ広がる門戸が広がる。

もう一つ重要であることは、国や都市、まちのイメージが高ければ、その国、都市の魅力が高まる。そして、この動きの中で、さまざまな戦略が可能であり、都市の活性化を試みる中で、万博などのイベントの使い方もこれからは重要になってくる。さらに、文化に投資をし、そして文化産業をつくり上げ雇用を創出するように、文化を媒介として具体的な産業を生み出さなければいけない。

まだ目に見えていない隠された美を発見する上で、そしてその美を歴史的な景観として世界に知らしめていく上で、さまざまな戦略が考えられる。その意味では観光が非常に重要であり、観光客を呼び寄せることができるような都市の美をつくっていくことが必要である。